

(別添1)

平成23年度 新入社員・企業・就活者へのエール

～「平成23年度・新入社員タイプ」の発表にかえて～

東日本大震災によって多くの人が命を失いました。卒業式と入社式を前にして亡くなった新入社員が多数いるであろうことは想像に難くありません。職業人として人生の新たなスタートを切る直前に、亡くなった新入社員たちのご冥福をお祈りいたします。その無念はどれほどだったでしょうか。また家族を失った新入社員、友人を失った新入社員、家や家財を失い今なお避難生活をしている新入社員も多いでしょう。内定先企業が被災したために内定を取り消された新入社員もいると聞きます。

心よりお見舞い申し上げます。

私たちは毎年、その年々の新入社員の特長をわかりやすい言葉にまとめ、新入社員のタイプとして発表してきました。採用した企業には、せつかく採用した若い働き手たちを大切に育成していただきたい、また新入社員たちには自分の特性をよく観察し、これからの職業生活の指針としていただきたいという趣旨によるものです。

本年もそのための準備を進めてまいりましたが、今般の大震災によって命を失い、あるいは甚大な被害を受けた新入社員も多数いることを思い、通常の発表を控えるとともに、それに代えて新卒新入社員を採用する企業へのアピールと、新入社員と就職活動中の学生への応援のメッセージを発表することにしました。

まずは新入社員のみなさんに呼びかけます。昭和48年以来続けられてきた新入社員のネーミングですが、毎年春の入社の時期になると、自分は何型だった、と思い出す方が多いと聞きます。ですが、今年の新入社員の方々には、何型というネーミングはありません。たとえネーミングはなくとも、この春を忘れる人はきっとないでしょう。

その記憶は、震災の発生以来、困難な状況の中で不眠不休で自分の職務に専念する数多くの職業人たちの姿とともにあります。私たちは、今年の新入社員のみなさんには、何型というネーミングではなく、有史以来最大級の災害に立ち向かう高い志とプライドをもった職業人たちの姿を、今後の職業生活の指針としてほしいと考えております。それは何型というネーミングよりはるかに雄弁です。

次に、就職活動中の学生諸君に呼びかけます。就職活動は、たんに卒業後の進路を選択するだけでなく、この体験をつうじて、あらゆる職業がなんらかの形で社会の互助的な人間関係につながっていることを考えてみてください。我々の日常生活はそのような無名の職業人によって支えられていることを胸の中に秘め、自分の職業観を形づくっていただきたいと思います。

最後に、企業の採用担当者にお願ひがあります。企業が採用活動を行う際、被災した学生を含め、全ての応募学生に公平な選考機会を提供するよう配慮をお願いします。学生が安全に就職活動を行えるよう、交通機関の乱れや計画停電および原発事故などによる社会不安の動向をよく見極め、選考の時期、方法について柔軟な対応をいただきたいと思います。特に被災地域在住の応募学生については、被災者支援の観点からも特段の配慮が必要です。このことは企業の社会的使命でもあります。それが今企業ができる復興支援の重要な一局面でもあるのです。

復興には直接、間接を問わず、数多くの若い働き手の活躍が必要です。みなさんがそれぞれの職業や学業において存分に奮闘されることをお祈りいたします。のんびりとしていることはできません。この災禍がもたらした悲惨な風景の回復には若い世代のみなさんの力が必要とされているのです。

公益財団法人 日本生産性本部

平成23年6月 職業のあり方研究会

■ 職業のあり方研究会とは

公益財団法人日本生産性本部(理事長 松川 昌義)「職業のあり方研究会」(座長 ライズコーポレーション株式会社 代表取締役 岩間 夏樹氏)では、若年者の勤労観の分析や若者像の探求を通じて、若年雇用に関する諸課題について調査研究を行っています。また近年は、企業や大学の採用、就職動向について分析を行い、自律的な職業人の育成に向けたキャリア支援にも取り組んでいます。例年、同研究会で発表する「新入社員のタイプ」の命名は昭和48年(1973年)よりスタートし、多くのマスコミや企業の入社式、新人研修などで取り上げられています。